

平成21年度

高校生アンケートのまとめ

－ふるさとの魅力、再発見のために－

飯田市教育委員会生涯学習・スポーツ課

1 調査目的

当課においては、現在、地域の力で教育を進める「地育力」の向上を重要な施策として、関係各機関との連携システムを構築中である。具体的には、地域の資源(人材、自然、産業、歴史、文化、民俗)を最大限に活用し、総合的な学習の支援、キャリア教育の支援、家庭教育の支援等様々な場面における子どもたちの体験活動の充実を目指し、多様なプログラムの策定に取り組んでいる。具体的な施策の実現にあたっては、現在の生徒たちの生活や意識、そして特に郷土に対する思いを把握し、今後の参考にしていくことが大変重要であると考え、高校生を対象としたアンケートを実施した。平成18年度にも同様のアンケート調査をしているので、今回は特に前回からの意識の変化・動向を把握することにより、18年度からの施策に対する評価も窺うことができるものと考えた。

2 調査内容

調査内容は大きく以下のように構成した。内容により、選択肢から選択してもらうものと、記述による回答を求めるものに分かれる。

属性

家族関係(家族構成・家族との関係・満足度)

友人関係(交流方法・満足度)

学校生活(満足度)

地域社会(隣人との関係・地域行事への参加度)

ふるさと(居住地・成育地・ふるさとに対する思い)

将来への希望(希望職種・地元での就職、進学希望・将来的な帰郷希望)

自己意識(自己満足度・体験・夢)

地域への提案

3 調査対象

飯田・下伊那地区内の高等学校(全9校)に在籍する生徒のうち、1, 2, 3各学年より任意に抽出した1クラス40名程度(1校あたり3クラス120名程度)の生徒を対象に実施した。調査人数は、次の通りである。全調査人員は962名であった。

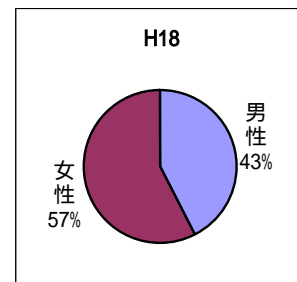
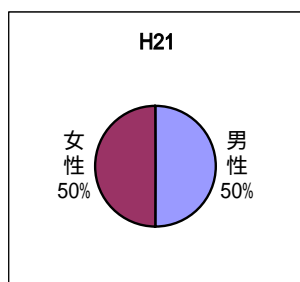
高校名	1年	2年	3年	合計
松川高校	39	32	35	106
飯田高校	40	40	39	119
飯田風越高校	36	39	35	110
飯田工業高校	39	39	34	112
飯田長姫高校	29	41	33	103
下伊那農業高校	38	38	40	116
阿智高校	36	34	31	101
阿南高校	27	24	23	74
飯田女子高校	40	40	41	121
合計	322	327	311	962

4 調査結果

属性

Q1 性別をお答えください。

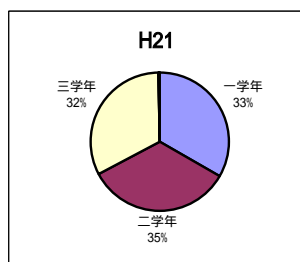
区分	H21	H18
男性	480	435
女性	482	588
回答数	962	1,023



(考察) 今回の調査では、ほぼ男女同数であった。

Q2 学年をお答えください。

区分	H21
一学年	322
二学年	326
三学年	312
四学年	0
未回答	2
回答数	962



(考察) 各学年、ほぼ同数で調査ができた。

家族との関係

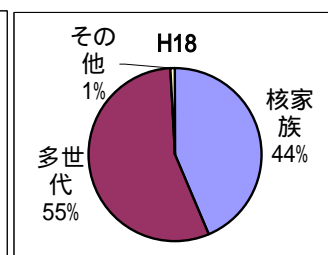
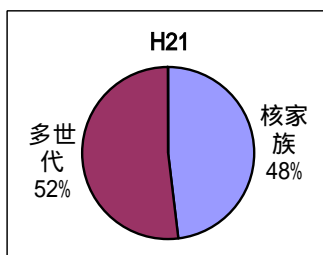
Q3 あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。

区分	H21	H18
父親	804	788
母親	906	824
兄	256	272
姉	244	245
弟	360	320
妹	354	356
祖父	316	316
祖母	436	430
曾祖父	11	8
曾祖母	26	23
その他	43	27

(その他)
叔父・伯父8 叔母・伯母7 義兄弟姉3 甥・姪2
従兄弟姉妹2
(考察) 平成18年度に比べ父親や母親と一緒に暮らしている生徒が増えている。

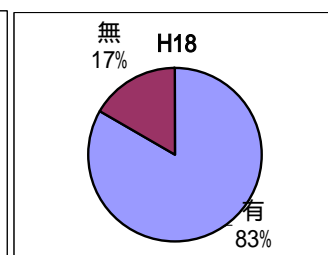
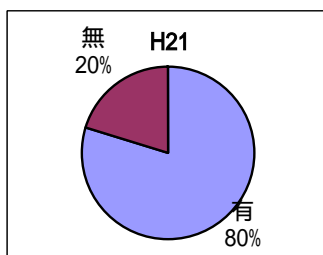
核家族と多世代家族の割合

区分	H21	H18
核家族	463	449
多世代	499	570
その他	0	10
回答数	962	1,029



兄弟姉妹の有無

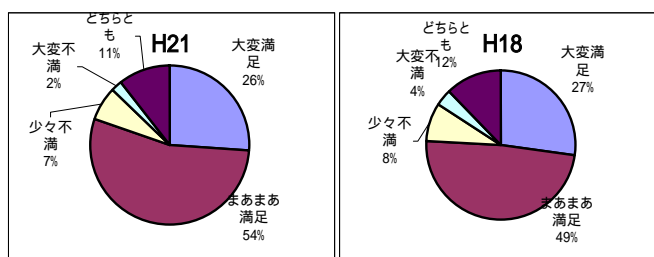
区分	H21	H18
有	768	858
無	194	171
回答数	962	1,029



(考察) 平成18年度より核家族が4%増えている。多世代家族と割合が同じになりつつある。

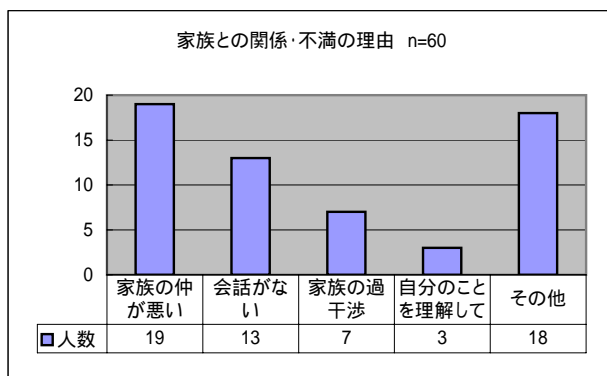
Q4 あなたは自分と家族との関係をどう感じていますか。

区分	H21	H18
大変満足	251	279
まあまあ満足	517	495
少々不満	67	84
大変不満	21	39
どちらとも	101	124
回答数	957	1,021



(考察)家族との関係については、「大変満足」「まあまあ満足」と答えた生徒が8割いる。18年度に比べて4%増えている。

Q5 「少々不満」「大変不満」と答えた方にお聞きます。
具体的にどんな不満がありますか。(自由記述を内容別に分類)

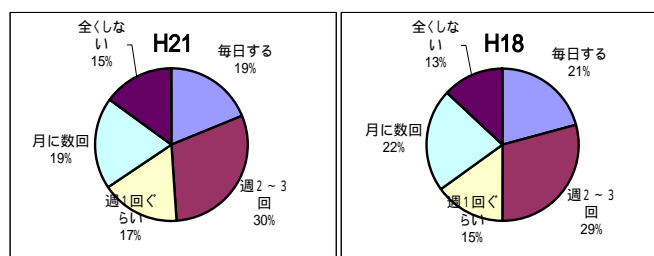


* その他
お金がない 父がない
自分の時間がない
自分の部屋がない

(考察)不満の理由について書いてきた生徒は、全体で60名であった。平成18年度と比べると半数に減っている。平成18年度は108名であった。不満の理由の傾向は似ている。

Q6 あなたは日ごろどのくらい家の手伝いをしますか。

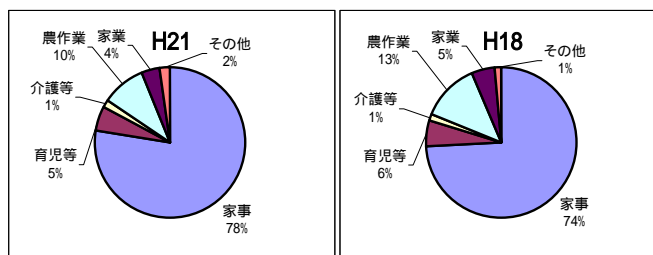
区分	H21	H18
毎日する	181	213
週2~3回	288	300
週1回くらい	161	153
月に数回	186	227
全くしない	144	133
回答数	960	1,026



(考察)18年度と同じような傾向であるが、「毎日する」と答えた生徒が2%減り、「全くしない」と答えた生徒の割合がやや増えた。

Q7 「手伝いをする」と答えた方にお聞きます。
どんな手伝いをしますか (複数回答)

区分	H21	H18
家事	737	791
育児等	50	60
介護等	14	13
農作業	91	135
家業	36	53
その他	22	15
回答数	950	1,067



(考察) 全体的には同じような傾向にあるが、農作業の割合がやや減っている。逆に家事の割合が、わずかながら増えている。

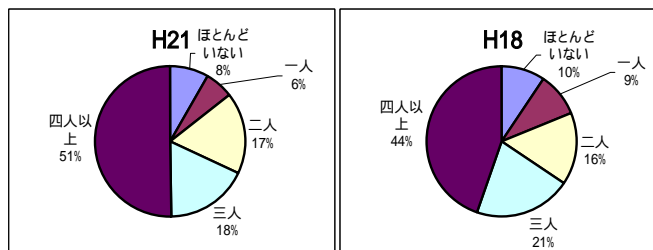
(家族との関係についての全体的な考察)

家族との関係については、平成18年度と比べると「満足している」「まあまあ満足している」と答えた生徒が4%増え、また家族への不満などを書いてきた生徒も減っている。18年度と比べ家族との関係は多少よくなってきていると思われる。お手伝いについては、18年度と傾向はよく似ているが、「週一回ぐらい」「月に数回」「全くしない」とする生徒が約半数もあり、あまりお手伝いにはかかわっていないという状況がある。

友人との関係

Q8 本音で話のできる友人は何人ぐらいいますか。

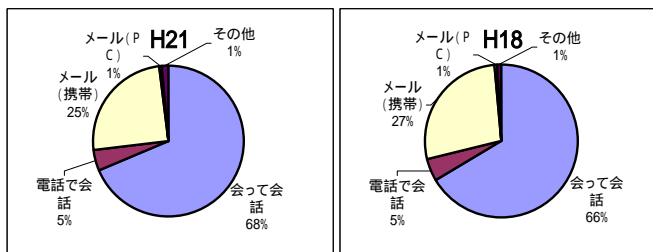
区分	H21	H18
ほとんどいない	80	97
一人	58	95
二人	164	158
三人	170	211
四人以上	475	455
回答数	947	1,016



(考察) 「ほとんどいない」と答えた生徒の割合が減り、4人以上と答えた生徒が7%増えている。

Q9 友人との交流方法で主なものはどれですか。

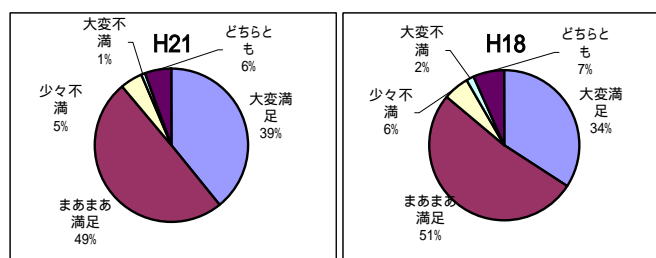
区分	H21	H18
会って会話	752	793
電話で会話	50	55
メール(携帯)	273	328
メール(PC)	8	9
その他	14	9
回答数	1,097	1,194



(考察) 平成18年度と傾向は似ている。会って会話をするという生徒が圧倒的に多く、メールを使っての交流は増えていない。

Q10 あなたは友人との関係に満足していますか。

区分	H21	H18
大変満足	377	350
まあまあ満足	476	535
少々不満	46	58
大変不満	7	16
どちらとも	54	69
回答数	960	1,028



(考察)「大変満足している」「まあまあ満足している」と答えた生徒が88%もいる。その割合も3%増えている。

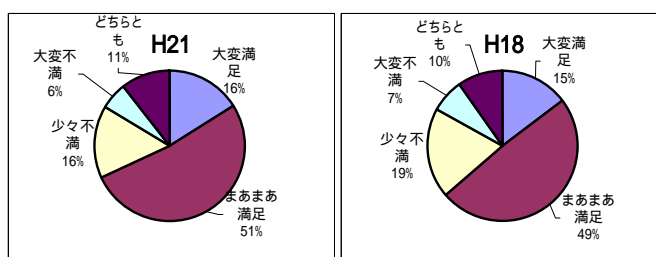
(友人との関係についての全体的な考察)

友人との関係については、18年度と比較すると「大変満足」「まあまあ満足」と答えている生徒が増え、友人の数も増える傾向にある。友人が4人以上と答えた生徒が7%も増えている。しかし、本音で話せる友人が「ほとんどいない」と答えた生徒が約1割いる。こうした生徒への指導が今後重要になってくる。友達との交流方法については、メールの使い方が心配されているが、メールを使っての交流は18年度からは増えていない。やはり直接会って話をするを大切にしている生徒が多く、そのことが友人関係を安定させているものと思われる。

学校生活

Q11 あなたは自分の高校生活に満足していますか。

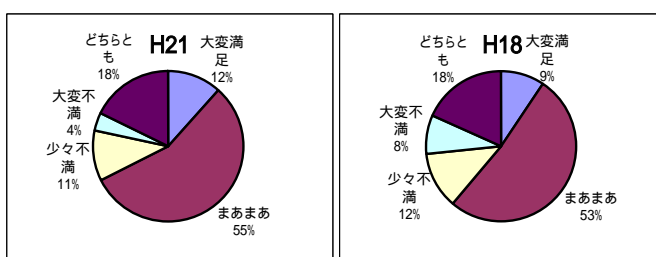
区分	H21	H18
大変満足	155	151
まあまあ満足	498	500
少々不満	151	199
大変不満	56	74
どちらとも	101	101
回答数	961	1,025



(考察)18年度に比べ、「大変満足」「まあまあ満足」と答えた生徒の割合が3%増えている。

Q12 あなたは自分と先生との関係に満足していますか。

区分	H21	H18
大変満足	111	96
まあまあ	534	528
少々不満	103	126
大変不満	39	85
どちらとも	169	187
回答数	956	1,022



(考察)先生との関係についても、18年度に比べ「大変満足」「まあまあ満足」と答えた生徒の割合が5%増えている。

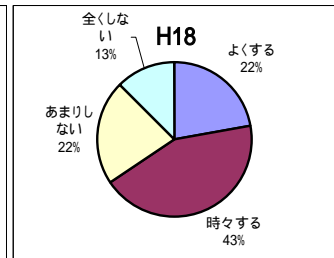
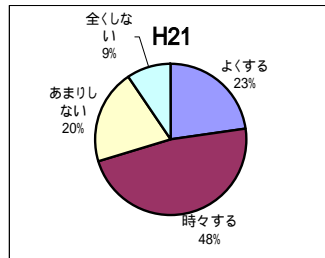
(学校生活についての全体的な考察)

高校生活に対して、約7割の生徒が満足と感じている。18年度に比べ満足と感じている生徒の割合が増え、落ち着いた学校生活が送られているようである。これもQ10の調査に見られるように友人関係が安定してきていること、先生との関係も安定してきているためだと思われる。

地域社会との関わり

Q13 あなたは近所の住人と、よく会話をしますか(あいさつなども含めます)。

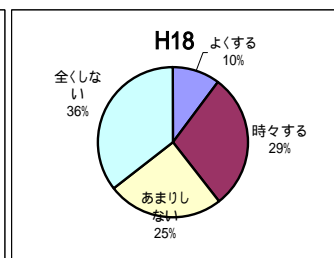
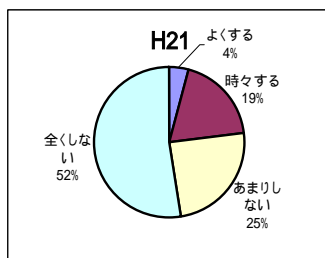
区分	H21	H18
よくする	219	227
時々する	454	447
あまりしない	196	224
全くしない	90	129
回答数	959	1,027



(考察) 18年度に比べ、近所の人と会話を「よくする」(あいさつを含む)、「時々する」と答えた生徒の割合が6%増えている。

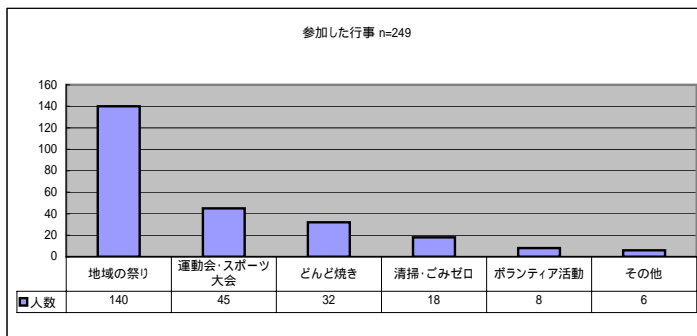
Q14 あなたは高校生になってから地域の行事(伝統行事、公民館行事等)に参加していますか。

区分	H21	H18
よくする	39	106
時々する	181	298
あまりしない	235	253
全くしない	502	364
回答数	957	1,021



(考察) 「あまりしない」「全くしない」と答えた生徒の割合が増えている。これは、18年度の質問内容と多少異なってしまったことによるものである。18年度の質問には公民館行事としての文化祭や運動会が具体的に記されていたが、21年度の質問項目には公民館行事しか書かれておらず、生徒にとっては分かりづらかったのだろう。実態としてはもっと多くの生徒が参加しているはずである。

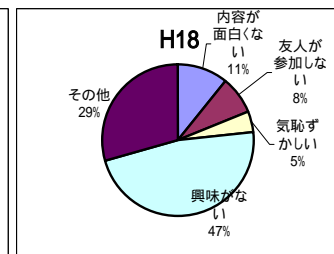
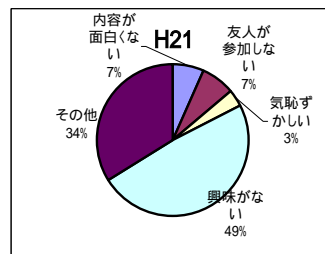
Q15 どのような行事に参加していますか。



(考察) 参加した行事は、地域の祭りが圧倒的に多い。しかし、地区の運動会を始め、公民館や地域主催の行事への参加は少ない。

Q16 「あまり参加しない」「まったく参加しない」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。

区分	H21	H18
内容が面白くない	49	66
友人が参加しない	53	48
気恥ずかしい	25	28
興味がない	356	287
その他	247	178
回答数	730	607

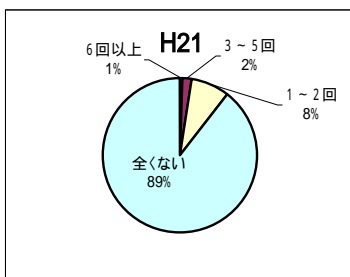


* その他 時間がない74 部活があって39 行事を知らない115 高校生にあった行事がない113

(考察) 18年度同様に「興味がない」とする生徒が半数である。また、部活などで「時間がない」と答えた生徒も多くなる。

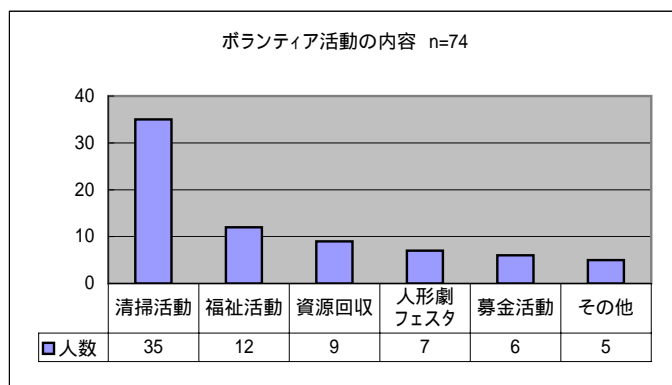
Q17 あなたは高校生になってから地域のボランティア活動に参加したことがありますか。

区分	H21
6回以上	6
3～5回	18
1～2回	76
全くない	853
回答数	953



(考察)「全くない」と答えた生徒が多いが、これは6月の調査であるため入学したばかりの一年生には参加する機会がなかったことによる。年間を通せば、もっと多くの生徒がボランティア活動に参加している。

Q18 どのようなボランティア活動に参加していますか。



(考察)地域での清掃活動(ごみゼロ運動)に多くの生徒が参加している。

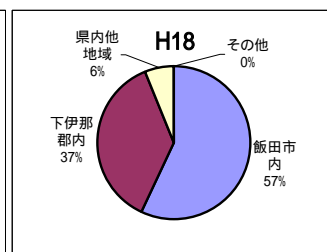
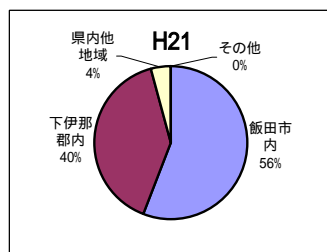
(地域との関係についての全体的な考察)

地域との関係については、18年度と質問内容が違っているものもあり一概に比較はできないが、近所の人との挨拶や会話などは増えてきており、地域との関係は多少密になってきているといえそう。しかし、挨拶などを「全くしない」という生徒が約1割、「あまりしない」という生徒が2割もいる。また、地域行事への参加は相変わらず少ない。忙しい生活の中でも、地域にかかわる良さを味わわせたい。

ふるさとについて

Q19 あなたが今住んでいる場所はどこですか。

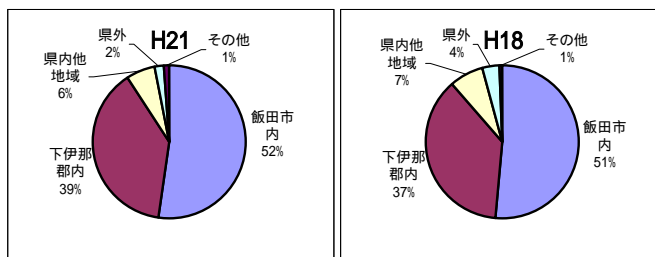
区分	H21	H18
飯田市内	506	564
下伊那郡内	362	368
県内他地域	38	60
その他	0	0
回答数	906	992



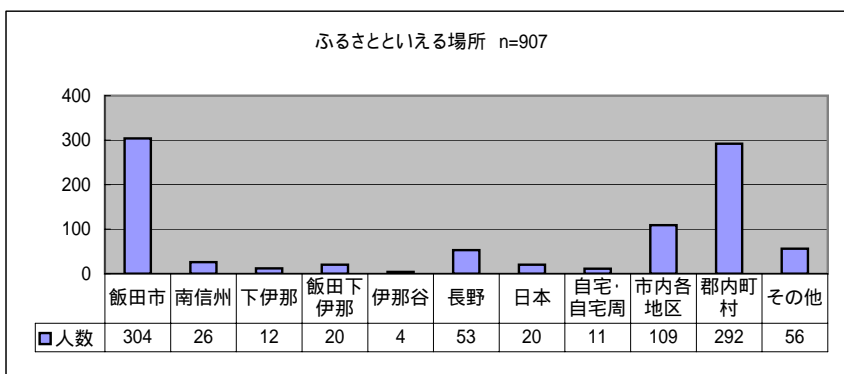
(考察)平成18年度と比べると、下伊那郡内の生徒の割合が増えている。

Q20 あなたが主に育った場所はどこですか。

区分	H21	H18
飯田市内	477	516
下伊那郡内	353	372
県内他地域	56	72
県外	16	37
その他	11	6
回答数	913	1,003



Q21 あなたにとって(今の時点で)自分の「ふるさと」といえる場所はどこですか。

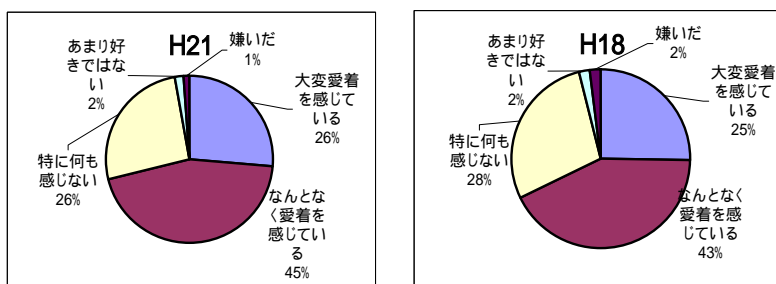


* その他 ない10 外国9 地球4

(考察) 自分のふるさとのイメージであるが、自分の住んでいる飯田市の各地区ではなく「飯田市全体」でとらえている生徒が多い。

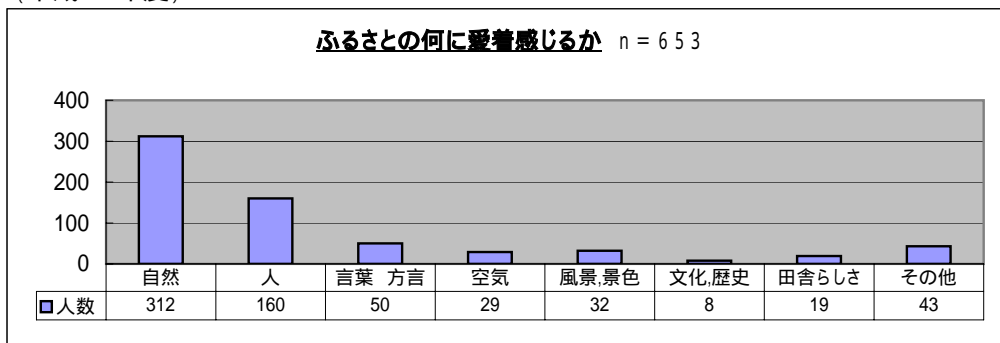
Q22 あなたはそのふるさに対してどんな気持ちを持っていますか。

区分	H21	H18
大変愛着を感じている	248	254
なんとなく愛着を感じている	420	430
特に何も感じない	245	286
あまり好きではない	16	19
嫌いだ	10	21
回答数	939	1,010

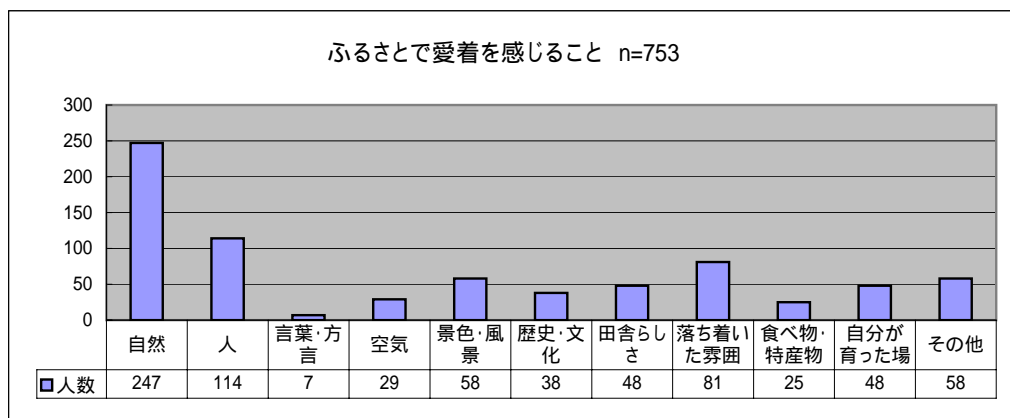


(考察) 「大変愛着を感じている」「なんとなく愛着を感じている」と答えた生徒が71%で、18年度と比較すると3%増えている。

Q23 「大変愛着を感じている」「なんとなく愛着を感じている」と答えた方にお聞きます。
特にふるさとのどんなものや事柄に愛着を感じますか。(自由記述の内容を分類)
(平成18年度)

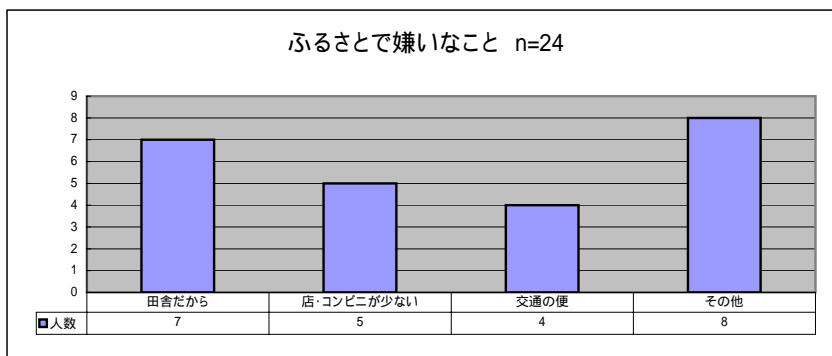


(平成21年度)



(考察)平成18年度と比較すると、「田舎らしさ」「落ち着いた雰囲気」をあげている生徒が増えている。

Q24 「あまり好きではない」「嫌いだ」と答えた方にお聞きます。
どんな点が好きではない、又は嫌いですか。(自由記述の内容を分類)



* その他 遊ぶところがない 狭い地域 活がない 山ばかり 雰囲気 道が狭い

(ふるさと意識についての全体的な考察)

ふるさとに愛着を感じる生徒の割合は、わずかであるが増えてきている。その愛着を感じる内容であるが、平成18年度には「自然」や「人」をあげる生徒が多かったが、本年度の調査では、「田舎らしさ」や「落ち着いた雰囲気」など、精神的なものをあげた生徒が多くなっている。日々の忙しい学校生活の中で、心の安らげる場所としての地域の環境に魅力を感じてきているのだろうか。また、愛着を感じる内容が多様になってきている。様々な体験を通して、地域の新たな魅力を発見しているのだろうか。

将来への希望について

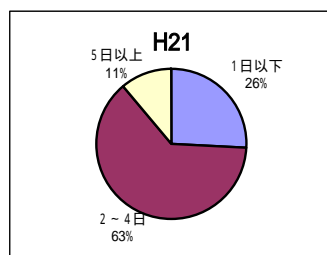
Q25 あなたは将来どんな職業に就きたいと考えていますか。(3つまで選択)

区分	H21	H18	*その他
農業	43	45	スポーツ関係10
漁業	3	10	栄養士6
林業	8	6	音楽関係5
商店・飲食店	91	100	ブライダル関係5
製造業	104	72	税理士・会計士5
観光・旅行業	21	47	自動車整備4
医療・介護・福祉関係	201	237	薬剤師3
弁護士・裁判官	13	14	インテリア関係3
マスコミ・芸能	65	56	通訳3
教師・保育士	131	146	調理師3
芸術家	26	30	
技術者・研究者	90	77	
金融・貿易・流通業	39	15	
建設業	38	25	
運輸・通信	21	22	
理容・美容・ファッション関係	103	112	
自衛官・警察官・消防士	38	35	
IT・SE関係	43	43	
動植物・自然・環境	67	*	
公務員	109	73	
その他	96	106	
決まっていない	154	203	
回答数	1,504	1,474	

(考察)平成18年度の調査と職業種が多少変わっているので一概に比較はできないが、製造業や技術者・研究者への希望が増えている。また、公務員志向の傾向も見られる。また、18年度と比較すると、就きたい職業を複数で回答する生徒が増えている。さらには「決まっていない」と答えた生徒が減っている。職業に対する関心の高まりが多少見られる。

Q26 中学校で職場体験学習をした日数を教えてください(農業体験・林業体験は除く)。

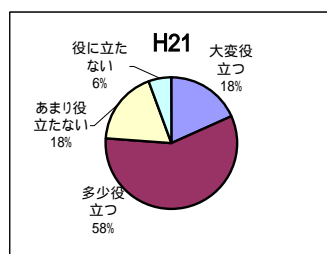
区分	H21
1日以下	249
2～4日	607
5日以上	106
回答数	962



(考察)職場体験を2日以上体験した生徒が74%になっている。

Q27 中学校で職場体験学習をしたことが、将来歩いていく道を決めるのに役立つと思いますか。

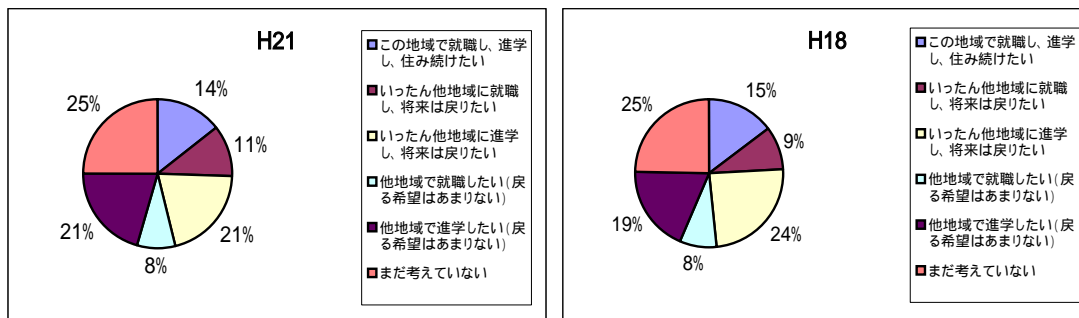
区分	H21
大変役立つ	168
多少役立つ	534
あまり役立たない	169
役に立たない	51
回答数	922



(考察)約3/4の生徒が将来的に役立つと考えている。

Q28 あなたは高校卒業後、この地域(飯田下伊那)に住み続けたいと考えていますか。

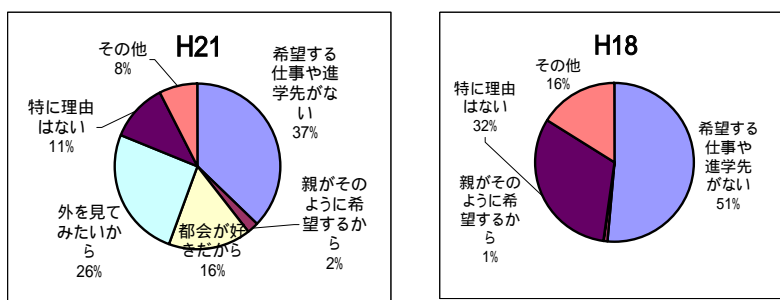
区分	H21	H18
この地域で就職し、進学し、住み続けたい	139	149
いったん他地域に就職し、将来は戻りたい	106	95
いったん他地域に進学し、将来は戻りたい	198	247
他地域で就職したい(戻る希望はあまりない)	79	82
他地域で進学したい(戻る希望はあまりない)	199	191
まだ考えていない	240	250
回答数	961	1,014



(考察)平成18年度と似たような傾向である。「住み続けたい」「将来は戻りたい」と答えた生徒は合計46%で、18年度より2%減っている。「まだ考えていない」とする生徒は、25%である。

Q29 「他地域で就職したい」「他地域で進学したい」と答えた方にお聞きます。それはなぜですか。(平成18年度と調査項目の違いあり・複数回答)

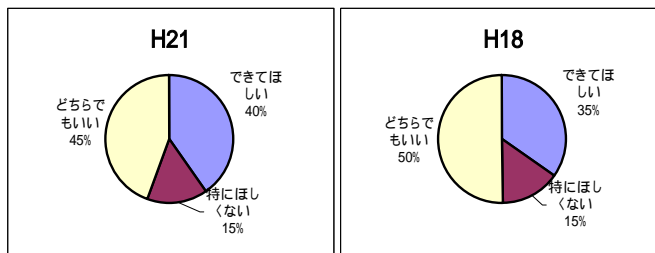
区分	H21	H18
希望する仕事や進学先がない	137	154
親がそのように希望するから	8	2
都会が好きだから	59	*
外を見てみたいから	94	*
特に理由はない	41	95
その他	28	48
回答数	367	299



(考察)18年度と調査項目が違うので一概に比較できないが、「希望する仕事や進学先がない」という生徒の割合は、37%である。「外を見てみたいから」という理由は、26%もある。

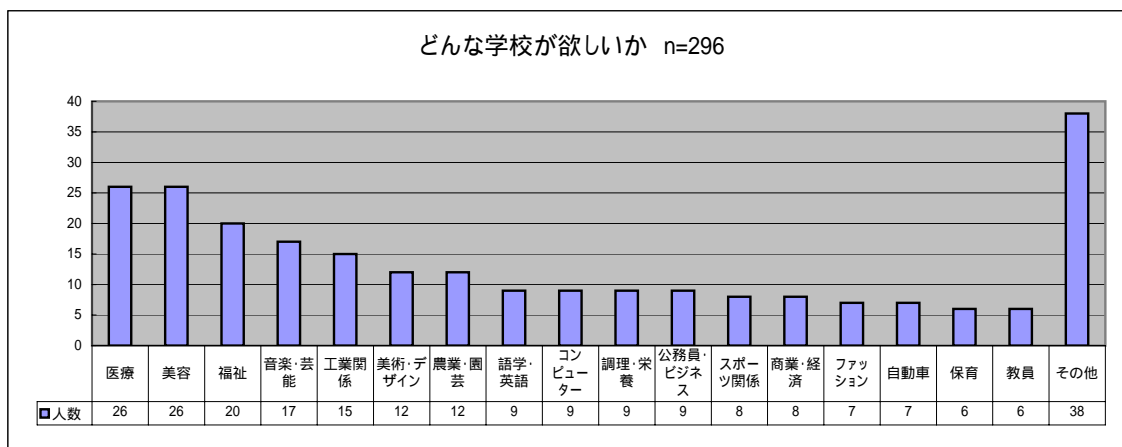
Q30 今、飯田下伊那地域には短大と専門学校が各1校しかありませんが、他にも大学や専門学校ができてほしいと思いますか。

区分	H21	H18
できてほしい	387	353
特にほしくない	145	151
どちらでもいい	428	510
回答数	960	1,014



(考察)平成18年度に比べ、大学や専門学校ができて欲しいという声が多くなっている。

Q31 「できてほしい」と答えた方にお聞きます。どんな専門学校や大学ができればよいと思いますか。(自由記述の内容を分類)



(考察)希望する大学・専門学校が多方面にわたっている。医療・福祉、美容関係の希望が多い。18年度と傾向はよく似ている。

(将来への希望についての全体的な考察)

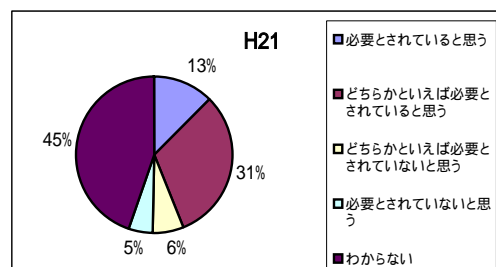
この地域に将来住み続けたいかの調査については、「住み続けたい」「将来は戻りたい」と答えた生徒は、18年度に比べると2%の減である。

また、「将来就きたい職業」や「どんな専門学校や大学ができてほしいか」の調査においては、18年度の調査に比べ生徒の希望が多様化してきている。自分の進むべき将来に向けて、幅広い選択肢をもってきているようだ。

自己意識について

Q32 あなたは、家族や友達など周囲の人から必要とされていると思いますか。

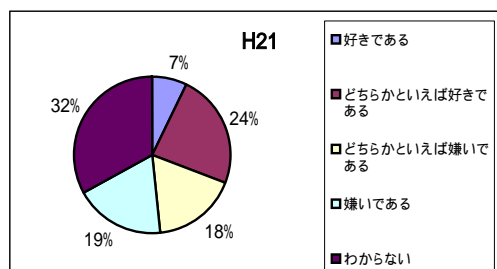
区分	H21
必要とされていると思う	120
どちらかといえば必要とされていると思う	300
どちらかといえば必要とされていないと思う	60
必要とされていないと思う	49
わからない	426
回答数	955



(考察)本年度から実施した調査である。「必要とされていると思う」「どちらかといえば必要とされていると思う」と答えた生徒は、4.4%である。しかし、全体の半数がわからないと答えている。

Q33 あなたは、今の自分が好きですか。

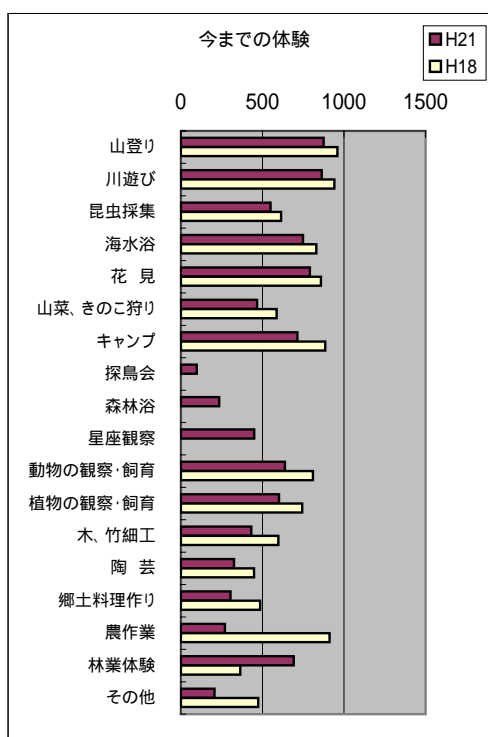
区分	H21
好きである	69
どちらかといえば好きである	224
どちらかといえば嫌いである	167
嫌いである	177
わからない	316
回答数	953



(考察)「自分を好きである」「どちらかといえば好きである」と答えた生徒は、31%しかいない。「嫌いである」「どちらかといえば嫌いである」と答えた生徒の方が6%も多い。自分を過小評価する傾向がある。

Q34 あなたは、今までにどのような体験をしたことがありますか。(複数回答)

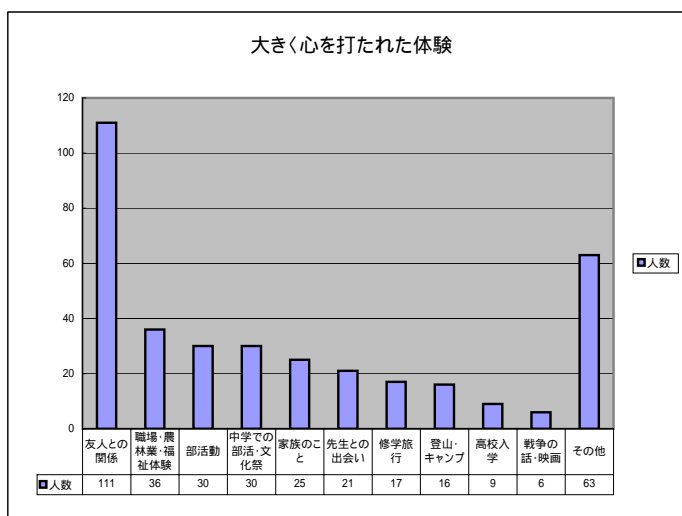
区分	H21	H18
山登り	875	959
川遊び	863	941
昆虫採集	549	614
海水浴	749	830
花見	791	858
山菜、きのこ狩り	467	587
キャンプ	714	885
探鳥会	97	*
森林浴	234	*
星座観察	449	*
動物の観察・飼育	638	809
植物の観察・飼育	601	744
木、竹細工	432	597
陶芸	326	448
郷土料理作り	304	486
農作業	270	911
林業体験	692	364
その他	206	474
回答数	9,257	10,507



(考察)平成18年度と選択項目の数が違うので一概に比較はできないが、全体的には同じような傾向にある。このところ中学校などで行われている林業体験が増えている。逆に農作業が減っている。これは18年度の調査では「田畑の仕事」という項目であったのが「農作業」という言葉に変えたのが影響したのかもしれない。体験の内容は多様化してきている。

Q35 あなたが今まで生きてきた中で、大きく心を打たれた体験はどんなことですか。(自由記述の内容を分類)

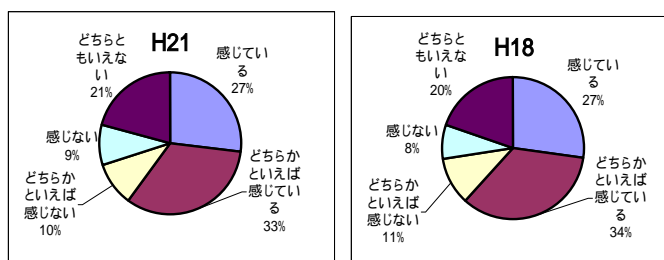
区分	人数
友人との関係	111
職場・農林業・福祉体験	36
部活動	30
中学での部活・文化祭	30
家族のこと	25
先生との出会い	21
修学旅行	17
登山・キャンプ	16
高校入学	9
戦争の話・映画	6
その他	63



(考察)心に残った出来事として、友人との関係をあげている生徒が111名と圧倒的に多い。「新しい友人との出会い」「友人と一緒に苦勞を乗り越えたこと」「友人の支え」などをあげている生徒が多く、高校生活における友人関係の大切さが窺える。18年度に友人との関係をあげた生徒は25名であった。また、職場体験、農業体験、林業体験などをあげる生徒が多くいた。ここ数年、各中学校においてキャリア教育に力を入れてきたからだろう。

Q36 あなたは自分の将来に夢や希望を感じていますか。

区分	H21	H18
感じている	250	275
どちらかといえば感じている	304	344
どちらかといえば感じない	93	110
感じない	85	79
どちらともいえない	192	198
回答数	924	1,006



(考察)平成18年度とほとんど同じ傾向にある。約6割の生徒が夢や希望を感じていると答えている。

(自分のことについての考察)

Q32 Q33の調査に見られるように自己有用感や自己肯定感などにかかわる評価がやや低い。毎日自信をもって生きていられるようにするためにも、自己肯定感を高めたい。そのためにも、地域の場で活動し多くの人に認められる経験をするのが大切であろう。

地域への提案

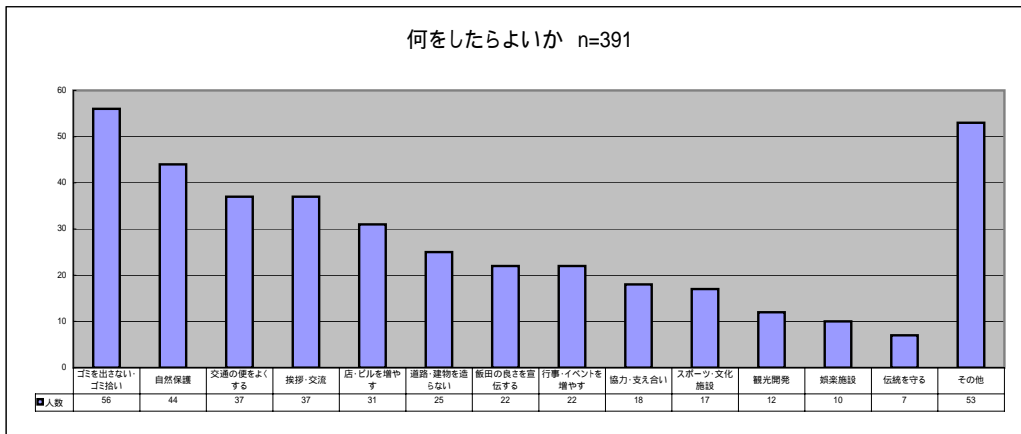
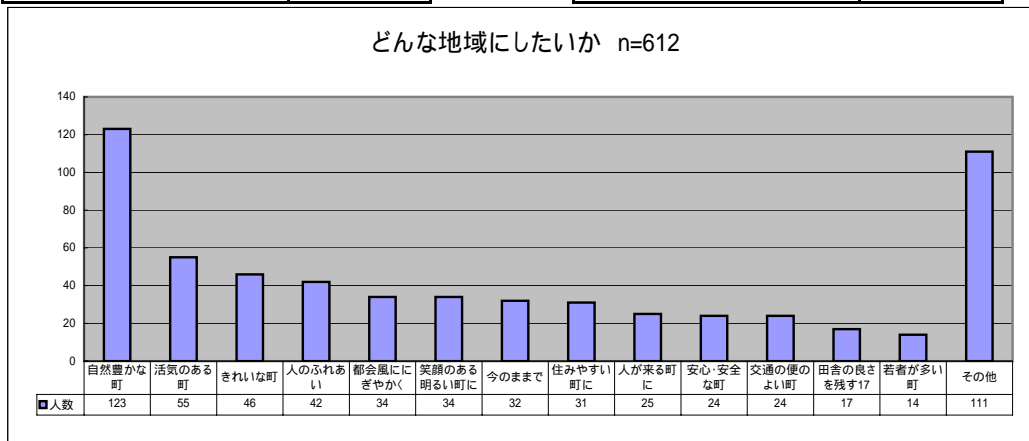
Q37 あなたは、飯田下伊那地域をどんな地域にしたいと思いますか。
 そのために何をしたらよいと思いますか。(自由記述の内容を分類)

(どんな地域に)

区分	人数
自然豊かな町	123
活気のある町	55
きれいな町	46
人のふれあい	42
都会風ににぎやか	34
笑顔のある明るい町に	34
今のままで	32
住みやすい町に	31
人が来る町に	25
安心・安全な町	24
交通の便のよい町	24
田舎の良さを残す	17
若者が多い町	14
その他	111

(何をしたらよいか)

区分	人数
ゴミを出さない・ゴミ拾い	56
自然保護	44
交通の便をよくする	37
挨拶・交流	37
店・ビルを増やす	31
道路・建物を造らない	25
飯田の良さを宣伝する	22
行事・イベントを増やす	22
協力・支え合い	18
スポーツ・文化施設	17
観光開発	12
娯楽施設	10
伝統を守る	7
その他	53



(地域への提案の考察)

現在、自分が愛着を感じている地域の良さをあげている生徒が多い。特に豊かな自然を守ろうとする提案が多く見られた。道路や建物をこれ以上に造らないよとの声も多く聞かれた。また、挨拶や人の交流を盛んにし、人々のふれあいを大切にしたいという意見も多くあった。都会のような賑やかさを求める生徒がいる反面、田舎のような良さを残したいという生徒も多くいる。

5 考察の一覧(再掲)

(1) 家族との関係について

家族との関係については、平成18年度と比べると「満足している」「まあまあ満足している」と答えた生徒が4%増え、また家族への不満などを書いてきた生徒も減っている。18年度と比べ家族との関係は多少よくなってきていると思われる。お手伝いについては、18年度と傾向はよく似ているが、「週一回くらい」「月に数回」「全くしない」とする生徒が約半数もあり、あまりお手伝いにかかわっていないという状況がある。

(2) 友人との関係について

友人との関係については、18年度と比較すると「大変満足」「まあまあ満足」と答えている生徒が増え、友人の数も増える傾向にある。友人が4人以上と答えた生徒が7%も増えている。しかし、本音で話せる友人が「ほとんどいない」と答えた生徒が約1割いる。こうした生徒への指導が今後重要になってくる。友達との交流方法については、メールの使い方が心配されているが、メールを使っての交流は18年度からは増えていない。やはり直接会って話をするを大切にしている生徒が多く、そのことが友人関係を安定させているものと思われる。

(3) 学校生活について

高校生活に対して、約7割の生徒が満足と感じている。18年度に比べ満足と感じている生徒の割合が増え、落ち着いた学校生活が送られているようである。これもQ10の調査に見られるように友人関係が安定してきていることと、先生との関係も安定してきているためだと思われる。

(4) 地域との関係について

地域との関係については、18年度と質問内容が違っているものもあり一概に比較はできないが、近所の人との挨拶や会話などは増えてきており、地域との関係は多少密になってきているといえそうだ。しかし、挨拶などを「全くしない」という生徒が約1割、「あまりしない」という生徒が2割もいる。また、地域行事への参加は相変わらず少ない。忙しい生活の中でも、地域にかかわる良さを味わわせたい。

(5) ふるさと意識について

ふるさとに愛着を感じる生徒の割合は、わずかであるが増えてきている。その愛着を感じる内容であるが、平成18年度には「自然」や「人」をあげる生徒が多かったが、本年度の調査では、「田舎らしさ」や「落ち着いた雰囲気」など、精神的なものをあげた生徒が多くなっている。日々の忙しい学校生活の中で、心の安らげる場所としての地域の環境に魅力を感じてきているのだろうか。また、愛着を感じる内容が多様になってきている。様々な体験を通して、地域の新たな魅力を発見しているのだろうか。

(6) 将来への希望について

この地域に将来住み続けたいかの調査については、「住み続けたい」「将来は戻りたい」と答えた生徒は、18年度に比べると2%の減である。

また、「将来就きたい職業」や「どんな専門学校や大学ができてほしいか」の調査においては、18年度の調査に比べ生徒の希望が多様化してきている。自分の進むべき将来に向けて、幅広い選択肢をもってきているようだ。

(7) 自分のことについて

Q32 Q33の調査に見られるように自己有用感や自己肯定感などにかかわる評価がやや低い。毎日自信をもって生きていかれるようにするためにも、自己肯定感を高めたい。そのためにも、地域の中で活動し多くの人に認められる経験をするのが大切であろう。

(8) 地域への提案について

現在、自分が愛着を感じている地域の良さをあげている生徒が多い。特に豊かな自然を守ろうとする提案が多く見られた。道路や建物をこれ以上に造らないようにとの声も多く聞かれた。また、挨拶や人の交流を盛んにし、人々のふれあいを大切にしたいという意見も多くあった。都会のような賑やかさを求める生徒がいる反面、田舎のような良さを残したいという生徒も多くいる。